

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立阿賀小学校	校長氏名	山下 伸一	生徒指導主事氏名	堀江 大志
-----	----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『もちつき大会』**取組のねらい『キーワード：地域との一体感』**

- ア 餅をつく、丸める、食べる活動を通して、保護者や地域の方、近隣の学校との交流を深め、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
- イ 5年生の児童のリーダーシップを育て、学校集団としての活力を高め、楽しく豊かな学校生活をつくるようにする。
- ウ 全校児童で稲を育て、収穫した米でもちつき大会を開き、収穫を祝う気持ちや勤労の尊さを実感できるようにする。

取組の具体的内容『キーワード：地域との協働』

- 1 準備、運営等（児童、PTA、地域、職員が一体となって行う）
- ア 5年生が中心となり「スローガン」の策定、「ありがとうカード」（地域への感謝のメッセージを書き、配布用のもちに添付）の作成をする。
- イ 地域の方、近隣の学校等（呉南特別支援学校、呉特別支援学校、呉市立呉高校、呉工業高等専門学校、呉高等技術専門学校）に案内を出す。
- 2 もちつき大会（全校児童が育ててきたもち米でもちを作り、一緒に食べる）
- ア 5年生が中心となり、当日の進行、受付、味付けの補助などの仕事を行う。
- イ PTAの方は、米を炊く、かまどの管理、もちつきの補助、味付けなどの仕事を行う。
- ウ 一緒にもちつきをしながら、地域の方や近隣の学校等と交流する。呉南特別支援学校の児童によるあいさつも行う。
- エ 校区内の交番やまちづくりセンターにも、もちを配る。

取組の課題・創意工夫『キーワード：伝統の継承』

- ア 伝統的に、5年生にリーダーとしての自覚をもたせる取組として位置付けている。6年生に代わり、全校を動かす経験をさせることで、来年度への見通しや、リーダーとしての責務を受け継ぐ気構えをもたせている。
- イ もちつき大会は33年の歴史をもっており、5年生は、歴史あるもちつき大会において、中心的な役割を担うことができるため、仕事に対し誇りをもっている。また、目的意識がはっきりとしているため、米作りも大変意欲的である。
- ウ 阿賀中学校でも、小学6年生にソーランを教えていくことが伝統となっており、中学校区を通し、集団の一員としての望ましい態度を育てる取組が位置付けられている。

取組の成果（効果）『キーワード：自己存在感』

- ア 5年生は、一人一人が役割を分担し協力して取り組んだことから、自分のよさや、協力することのよさに気づくことにつながった。また、自分たちがリーダーとして活動できた体験を通し、自らの行動に自信を深め、リーダーとして学校を引っ張って行こうとする意欲を高めることができた。
- イ 地域の方ともちつきを通し、交流したことで、地域の一員としての意識を高めることができた。

今後の展開『キーワード：自己決定の場を増やす』

もちつき大会がより充実した取組になるように、どのような工夫や改善が必要か、児童の意見や考えを参考にし、来年度の計画を立てていきたい。このことで、児童の自己決定の場や機会を増やし、自己実現の喜びをこれまで以上に味わわせていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード：行事を生かす』

生徒指導を充実させるために、新たな取組をしていくことも必要であるが、これまで続けてきた行事を社会性の育成といった視点で捉え直し、活動を組み立てていくことも大切であると思う。行事の精選が求められる昨今、これまでの行事を生かしながら、児童にとって中身のある活動を仕組んでいきたい。